

北公民館

分館文化祭

11月3日(土)～11日(日)の間に各分館の文化祭が盛大に行われました。



▲11月11日 西高柳ふれあい文化祭

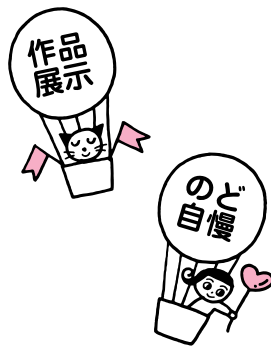
▼11月11日 塩屋文化祭



▲11月11日 北川原文化祭
▼11月3日 上高柳フェスティバル



▼11月11日 恵久美文化祭



▼11月10日 西古泉ふれあい文化祭



補導センターだより

見方を変える

松前町青少年補導センター所長 山本宗一

JR北伊予駅から松山へ出向いた最近のことである。

二つの場面にでくわした。

一つ目は、その時刻の列車は2番線ホームからの発車だったので、改札口を出て階段を昇っていった。2人の女子高生? (私服だったので定かではない。) が階段の降り口の2段目に並んで座っていた。降りづらかったので、「ちょっと、ごめん。」と言ったら身をよじらせて通してくれた。

そのことは、強くは気にならなかった。ところが、私に続いて列車に乗り込んだその2人は、すぐに入口から右へ少しずれて、車掌室前の床に座りあぐらをかいた。幸いにも乗客はまばらで、物質的には、他人へ迷惑がからなかった。

ので注意がけはしなかったがいささか異様であった。

二つ目は、それから1週間ほど経って、また上り列車に乗ったときのことである。

プラットホームには、高齢のご婦人が2人居られた。私より先に列車に乗られた。続いて私が乗車したとき、客席の一番端に座っていた16

〜17歳位の茶髪の青年が無言で立ちあがって進行方向前方へ歩いて行った。その青年は何も言わなかったが、正しくご婦人方に席を譲ったしぐさ以外の何ものでもなかった。

最近の子どもたちの無軌道な行動をみると、今と昔とでは子どもたちが変わってしまったと思うのも無理のないことではある。しかし、ほんとうに最近の子どもたち全員がおかしくなってしまったのかそうではない。数字の上でも明らかなことであり、ほとんどの子どもはキレイやすい状態にあるのではない。

ジベタリアンにしても茶髪で誇示する青年にしても、他人に迷惑をかけようと心底は思っていないのである。

むしろ、素直に道を開けたり席を譲ったりする普通の倫理観や優しい心情を持ち合わせているのである。

外見からのみ子どもたちを疎外することが一番恐れられることである。子どもたちの行動を変えるには、子どもたちを信じていることからはじめなければならぬ。